

# 令和5年度 北見カトリック学園 北見聖母幼稚園 学校評価

## 1. 教育目標

キリストに倣い、神を敬い、信じ・愛する心・感謝する心を養い更に祈る心を育てよう努める  
 子ども像  
 1. 「ありがとう」「ごめんね」「いいよ」の心を素直に表現できる子  
 2. 命の尊さを知り、すべてのものを大切にできる子  
 3. 他者との違いを認め受け入れられる子  
 4. 相手の気持ちを考えると共に自分の考えを相手に伝えられる子  
 5. 人の話をしっかり聞き、じっくり考える子  
 6. 強い心と身体で、自発的に行動する子

## 2. 教育目標達成に向けての令和5年度の重点

- (1)キリストの愛の精神『ありがとう・ごめんね・いいよ』の実践  
 (2)特別支援教育・保育の充実(一人ひとりの発達段階に応じた支援のあり方を見つけ実践する)  
 (3)園生活を通して神様の恵みに気づき感謝の気持ちを育て祈る(神様からのプレゼントを見つけよう)  
 (4)【楽しい幼稚園】を目指し保育内容と職員研修の充実を図る

## 3. 評価項目の達成状況

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.6	3歳未満児保育の導入により、行事や活動の取り組み方、時期等を配慮しながら行うことができた。子ども達にとって「楽しい幼稚園」となるように努めているが、クラスによって活動内容にばらつきが見られた。クラス間の連携を図っていく。
保育の充実と園児との関わり	3.6	園内外の研修を積極的に受ける職員が多かった。特に、中堅職員の研修が充実した。3歳以上児職員と3歳未満児職員との情報交換が課題である。連絡や報告漏れ等に気をつけ、園全体が一つのチームとして保育に携わっていく。
安全管理	3.8	今年度より、コドモンが本格的に始動した。登降園管理システム、天候変化によるバス運行に関する保護者連絡等、園児の安全管理が充実した。園バスの置き去り防止ブザーを設置し、園児と職員で訓練ができた。不審者対策が課題である。
地域の幼児教育機関としての役割	3.3	未就園児教室で地域の子育て支援の拠点としての役割を果たすことができた。少子化の影響と共働き世帯が多くなったため、今後の子育て支援のあり方に課題がある。今後も、ブログ等での発信を増やし、地域への情報提供に努める。
教員の資質・能力向上	3.5	リーダー研修や園内研修(外部講師を招く)等、研修内容の充実を図ることができた。職員構成が新しくなり保育・教育の積み重ねが難しくなった。園外での研修では、札幌でモンテッソーリ研修を受けることができた。各職員が学んだことを園内研修で共有、実践へと繋がるように努めていく。
保護者との連携	3.7	新型コロナウイルスの5類への移行により、保護者が参加する行事が増えた。保護者と子ども達の成長を喜び合うことや発達段階の共通理解が深まった。今年度初めて、保護者アンケートを実施した。アンケート結果を今後の園運営や保育・教育に生かしていく。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

## 4. 令和5年度の総評

結果	理由
3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児未満児保育の導入により、乳幼児期において一貫性のある保育・教育が可能となった。その一方で、行事のあり方や職員連携の面で課題がある。</li> <li>・新型コロナウイルスが5類へ移行した後も、換気や消毒など感染対策をしながら保育を行っている。今後も集団感染が拡大しないよう、保護者へ早めの受診等の協力を引き続きお願いする。</li> <li>・職員の研修は、対面式とオンライン式の両方を活用し、学びを深めることができた。</li> <li>・子育て支援事業として、未就園児教室や子育て講習会等を行っているが、参加者が減少傾向である。様々な要因が考えられるが、内容等の検討や地域への発信の工夫が必要である。</li> <li>・ICTの活用による通信類の配信や保護者との連絡等、僅かずつではあるが職員の負担軽減になってきている。保護者の中には便利さを感じている一方、戸惑いを感じている面(ペーパーレス化等)があるため、臨機応変に対応していく。</li> </ul>

- ・3歳以上児と3歳未満児の連携
- ・保護者支援の充実(関係機関との連携)
- ・安全対策の充実
- ・魅力ある幼稚園作りを職員全員で取り組む。(子育て支援事業も含む)
- ・コドモンを活用し、職員の業務軽減に繋げる。